



人生の分岐点

「プロのミュージシャンになる」
そう決めたのは、十八才の冬だった。大学進学を目前に「本当に自分がしたいこと」を考え抜いた上での結論だった。

山本さんが音楽活動を始めたのは、中学三年の時。それまで、コンサートなどに足を運んだこともなく、音楽に全く興味がなかった。彼だが、友人に誘われ、生まれて初めてライブに出かけた。その時、「自分はこれがやりたいんだ」と、直感的に強く思ったという。

その気持ちがお原動力となり、楽器の弾き方も譜面の読み方も何も分からなかったが、すぐさま音楽の世界に飛び込んだ。そう簡単に

上達できるものではないが、やればやるほど興味がわいて、楽しくて、音楽に夢中になった。途中でやめたいと思ったことは、一度もないという。

目指す音楽

二〇〇〇年二月、「FAKE
LOVER」の一員として活動を開始。メンバーは同年十月から現在の三人となった。アルバムを作しながら、プロを目指して活動中。ライブは二カ月に一回、市内のライブハウスで行っている。

曲は、全てオリジナル。リーダーの市橋新悟さんとその弟の翼さんが中心となって作詞作曲を行い、山本さんは主にベースのアレンジ（編曲）を担当する。今までにな

世界のサッカーが札幌で

二〇〇二年五月三十一日、日韓共催のFIFAワールドカップ™が開幕する。四年に一度のこの世界大会がアジアで行われるのはもちろん、二つの国で大会が行われるのも、FIFAワールドカップ史上初めてのことだ。

開催地の一つである札幌。六月一、三、七日には、世界に名だたる強豪国のサッカーを、札幌ドームで見ることが出来る。

この夢のような札幌開催に向けて、さまざまな分野で数多くのボランティアが準備を進めている。堀内さんもその一人だ。

自分を変えたCVS

堀内さんは、四年前に「職場以外の人と交流し視野を広げたい」という思いから、CVS（コンサドーレ札幌ボランティアスタッフ）として活動を開始した。

現在、CVSには、十代から六十代まで二百八十一人が登録。札幌ドームでは約十一時間、ほとんど立ち通しで、ファンクラブの受け付けや報道関係者の誘導、チケットの確認、場内の案内、落とし物や迷子の対応など多くの仕事をこなす。

学生時代は、人と話すことが苦手な手を決して積極的ではなかったという彼女だが、ときばきと接客する今の姿からは想像ができない。



年に一度のCVS交流会。ピンゴゲームをしたり、コンサドルズと一緒に踊ったりと、楽しいイベントが盛りだくさん。
(前列右から二番目が堀内さん)



試合後のごみ拾いをする堀内さん。約四万人を収容する札幌ドームの観客席をたった九十人ほどできれいにしなくてはならない。
(写真提供 北海道フットボールクラブ)